

## 【設楽原の連吾川決戦】の解説 住所 新城市竹広字信玄原

城の説明	見どころ:話どころ	聞きどころ
設楽原の決戦	織田・徳川VS武田	武田軍田峯城に向け撤退
戦いの結果	織田・徳川連合軍の勝利	戦没者合計1万6,000人

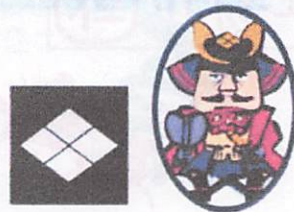
織田信長



徳川家康



武田勝頼



\* 奥三河にある長篠城は、信濃と三河、遠江から三河を結ぶ交通路にあり、甲斐から西上の地政学上の要衝の地であった。武田勝頼は、この地を勢力下に置いておくことを必要とし、又父信玄が領地とした長篠城を奪還しなければならないと思い天正3年(1575)4月に兵を起こした。逆に徳川家康にとっては、目の上のコブであり、戦略的な要衝の地であった。長篠・設楽原の戦いでは、当時日本最強を誇る武田騎馬隊と、徳川家康と織田信長の連合軍が、放つ3,000挺の火縄銃の戦いでした。是を機に織田信長は【天下布武】への道を確認なものとし、徳川家康は、江戸幕府の礎となる、出世街道を驀進することとなります。反対に名門武田家は、勢力を失い7年後に、甲斐の天目山で滅亡します。

この戦いは、種子島から伝わった【鉄砲】を組織的に使用して衝撃的な威力を見せつけ、以後の戦い方法、築城にも大きな変化をもたらしました。戦国の中世から近世への分岐点ともいえる【長篠・設楽原の戦い】です。設楽原に到着した、織田・徳川連合軍は、連吾川の西側に陣をしき、馬防柵を構築しました。当時日本一と恐れられた武田騎馬隊を迎え撃つために、考えだされた戦法です。織田信長は、はるばる岐阜から柵木をもって来たと言われます。一方武田側は軍議の結果、一部を長篠城の監視に残し豊川を渡り、設楽原へ出陣しました、連吾川の東岸の台地に、敵陣地を見下ろすように陣を張りました。

## 設楽原歴史資料館

## 設楽原の決戦のあった場所



したらがはら

### 設楽原古戦場 (市史跡)

所在地 / 愛知県新城市東郷地区一帯

時期 / 天正3年(1575) 5月 21日

概要 / 織田信長、徳川家康連合軍と武田勝頼の戦いが行われた。北に雁峯山、南に豊川に囲まれ、中央を流れる連吾川の両サイドには比高差 20m程度の台地が舌状に突き出ており、歴史にその名を刻む古戦場としては意外に狭い印象を持つだろう。この地で連合軍 38,000 人、武田軍 15,000 人が激突し、両軍合わせて 15,000 人の戦死者が出たと伝えられている。信玄塚や馬防柵等の史跡が点在している。

- ・【長篠・設楽原の戦い】の決戦の地設楽原には、昭和55年に発足した【設楽原をまもる会】があります。会が誕生して40年になりますが、『古戦場の40年が、いつの間にか通り過ぎようとしている。400年に比べればはるかに短く その歩み はささやかだが』・設楽原40年の歩みより。まもる会は、設楽原の何をまもろうとしているのか？【古戦場の史跡と景観の保存】【戦国戦歿者の供養】【古戦場の紹介・案内】【古戦場の学習や研究】【馬防柵の修復再現】【決戦場まつりの実施】【甲州との交流】等々、どう地域ぐるみでこれらを守り続け継続させるかを目標に活動をして来ました。この冊子にも登場しますが、子供から大人まで楽しめる【古戦場のカルタで巡るガイドブック】は、様々な角度から取り上げられカルタの再版も予定されています。

## 設楽原決戦場まつり

黒澤明監督の影武者の特別鑑賞チケット↓



# 連吾川の対決の舞台を 探訪しましょう！



決戦場まつり馬防柵

## 三英傑集結・決戦火蓋の地 【設楽原古戦場】



新城市は戦国の歴史と史跡の宝庫  
長篠・設楽原の戦いは、中世から近世への分岐点

### 【設楽原決戦場のタイムスリップ】

設楽原の狭さを体感

\* 【長篠・設楽原の戦い】の戦目付は、徳川軍は本多忠勝で、  
武田軍は跡部勝資だと伝わる。

織田信長は、石山合戦で、雑賀鉄砲衆に苦しめられた事が、  
鉄砲隊を組織する事を編み出したと云われる。

#### ・ 織田・徳川連合軍の設楽原の参戦武将

○ 徳川軍 . . . . . 8,000人

- ・ 弾正山 → 徳川家康
- ・ 松尾山 → 徳川信康
- ・ 連吾川右岸 → 大久保忠世 本多忠勝 榊原康政  
石川数正 平岩親吉 鳥居元忠 内藤家長
- ・ 鳶ヶ巣山 → 酒井忠次

○ 織田軍 . . . . . 30,000人

- ・ 極楽寺山 → 織田信長 (柴田勝家)
- ・ 天神山 → 織田信忠 河尻秀隆
- ・ 御堂山 → 北畠信雄 稲葉一鉄
- ・ 本陣後詰 → 佐久間信盛 滝川一益 羽柴秀吉他

決戦場まつり  
: 馬防柵再現地にて  
【長篠設楽原鉄砲隊】



## 【新城市設楽原歴史資料館】 ☎0536-22-0673

住所 新城市竹広字信玄原552番地



- ・設楽原歴史資料館は、平成8年4月28日に開館しました。館内では、【長篠・設楽原の戦い】の解説及び【火縄銃】【火おんどり】幕末の外国奉行【岩瀬忠震】の3つのコーナーの展示がされており、特に火縄銃の収集では、およそ100挺の【日本の火縄銃のコレクション】を誇ります。
- ・屋上からは、設楽原の馬防柵再現地を望むことが出来る。

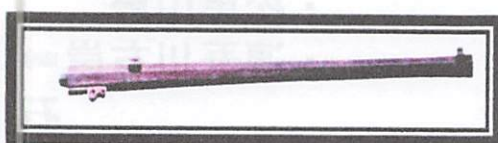
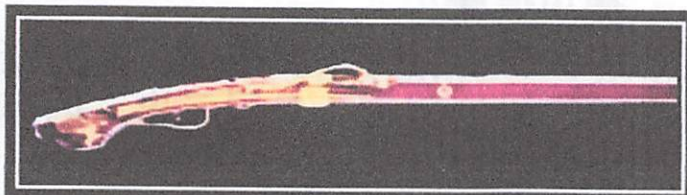


## 【新城市設楽原歴史資料館の説明】：設楽原の決戦場の中心地

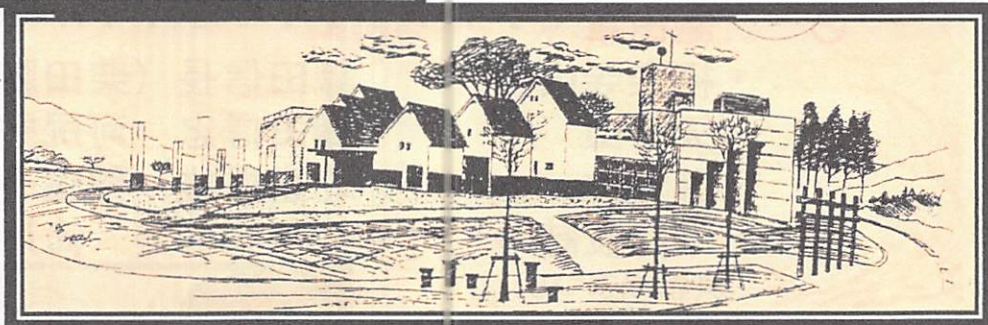
場所 新城市竹広信玄原552番地

- ・地元の豪族設楽氏が治めていた場所（設楽原）で戦いが行われたので【設楽原歴史資料館】の名前に成りました。
- ・設楽原をまもる会の会合拠点として、郷土史研究会の例会、蔵のコンサートなど音楽会等、多方面に利用されています。
- ・設楽原決戦場まつりで、資料館前の芝生広場は、小学生の歌や踊り等で賑わいます。
- ・鉄砲は、全国制覇をねらう【信長・秀吉・家康】から庇護を受けて、【近江の国友】は、我が国最大の鉄砲産地に成りました。資料館内にも、国友産の鉄砲の他、多くの種類の鉄砲が展示してありますので、是非ご覧ください。

信玄砲👉



資料館スケッチ



## 【新城市設楽原歴史資料館】

### 【岩瀬忠震公の銅像】

・地元設楽家の末裔の、幕末外国奉行で開国の先駆者です。アメリカの総領事ハリスとの【日米修好通商条約】の締結の日本代表でした。

・平成28年4月29日に岩瀬忠震公の銅像が、設楽原歴史資料館前に建立されました。館内にも岩瀬忠震コーナーが有り業績を顕彰しています。5つの国との条約の締結に携わりました。・安政の大獄で、失意のうちに亡くなりました。銅像は、資料館の地元竹広に、設楽家の竹広陣屋が在った縁で此処に建立されました。銅像が指さす方角は、忠震が提案した開港場所【横浜】の【開港記念館】を指している。



### 【岩瀬忠震公へのタイムスリップ】：岩瀬忠震公の説明



場所 新城市竹広信玄原552番地 設楽原歴史資料館入り口

- ・岩瀬忠震公の銅像前は、設楽原歴史資料館を訪れた記念写真を撮る絶好のポイントです。
- ・岩瀬忠震公は【日本の開国の先駆者の外交官】です。
- ・館内にも、岩瀬忠震公のコーナーが在ります。
- ・岩瀬忠震公は、安政の【五か国条約】を締結した、新城市ゆかりの幕閣です。竹広の東郷中学の付近に、設楽家の竹広陣屋がありました。
- ・アメリカの総領事ハリスとの間で、【日米修好通商条約】の調印をするなど活躍しましたが、安政の大獄で、失意の内に43歳で亡くなりました。多くの書画を残しています。
- ・岩瀬忠震公の銅像の指さす方向は、忠震公が提案した小さな漁村・現在の横浜の【開港記念館】を指さしています。

菩提寺勝楽寺の  
岩瀬公顕彰碑と現在の横浜



横浜開港記念館 ↑写真

【設楽原歴史資料館前の不思議なもの】  
【京都の鴨川の橋脚】

・設楽原歴史資料館の、岩瀬忠震公の銅像前に鎖で四角く囲まれたコーナーの中に、不思議なコンクリート製の様な石柱があります。

・京都盆地の中央を流れる鴨川は、古来より幾度か氾濫して来ました。これはその橋脚ですが表面に削られた文字は、【天正十一年】と微かに、読み取ることが出来ます。天正11年と云えば、京都に本能寺の変があった翌年に当たります。織田信長が無念の最期を遂げた同じ年に、武田家も滅びました。戦いは、【あしたを奪います】。

・設楽原をまもる会の会員が、平成11年頃、京都の古物商より買い求め此処に設置した物です。歴史のロマンを感じさせる橋脚です！



【京都鴨川の三条大橋橋桁のタイムスリップ】

- ・天正11年刻印の京都三条大橋の橋桁が、設楽原歴史資料館前の岩瀬忠震公の銅像前の木陰の中にあります。織田信長と武田勝頼は、7年前の設楽原で雌雄を決する死闘を繰り広げました。
- ・天正10年6月2日に信長は、京都本能寺で没した、そのわずか3ヶ月前の天正10年3月11日に武田勝頼は、甲斐の天目山の田野の地で自刃しました。歴史の織りなす綾でもあります。
- ・二者が没した翌年の刻印が刻まれた橋桁が、この設楽原の新城市設楽原歴史資料館に在るのも、何かの因縁であろうか？
- ・それとも、京都本能寺で没した織田信長と、三条河原にさらされた武田勝頼公が、現況確認と互いの健闘を称えにやって来たのであろうか？いずれにしても、何の看板も無いため、三条大橋の橋脚は静かに時を数えるのみである。

【ヤマユリ】が咲くと、梅雨が明けます。戦国の【長篠・設楽原の戦い】も新暦7月9日それは、新城のヤマユリの平均開花の時です。四百四十六年前も今も、花は静かに咲きます。



# どうする家康：設楽原古戦場を駆け巡れ！



## ・どうする家康：設楽原古戦場巡り順路

- ①【設楽原歴史資料館】      ⑪【丸山砦跡】：設楽原決戦の北の位置。  
・火縄銃・火おんどり・岩瀬忠震の3つのコーナー。
- ②【天王山】：勝頼公指揮の地の碑      ⑫【謎の塚】：五味与三兵衛の塚  
・内藤昌豊の塚もそばに寄り添うようにあります。
- ③【信玄塚】：供養の火まつり      ⑬【土屋昌次公の塚】カルムの家前。  
・毎年8月15日には戦没者の供養火おんどりが行われる。
- ④【首洗池】：設楽原の戦いの戦没者の遺体を洗い清めた池と伝わる。
- ⑤【勝楽寺】：戦いのゆかりのお寺、勝利に因んで松楽寺から勝楽寺に変更。
- ⑥【家康本陣】：八剣神社が設楽原の決戦の戦地本陣です。
- ⑦【家康物見塚】：徳川家康の著者山岡荘八氏揮毫の石碑。
- ⑧【山縣昌景公墓】：【火おんどり坂】の途中にあります。
- ⑨【甘利信康公墓】：資料館から馬防柵への柳田激戦地にあります。
- ⑩【馬防柵再現地】：連吾川沿いに120m再現されています。



④ 設楽原の古戦場 決戦場まつりなどで歌われています。

設楽原には、設楽原をまもる会等の努力下、戦国の史跡が数多く保存され護られています。



織田信長・徳川家康の築いた馬防柵の弾正山風景(ドローン撮影)



【馬防柵再現地】

地元の郷土史研究会の【設楽原をまもる会】が合戦当時織田・徳川連合軍が、武田軍の騎馬の侵入を阻止するために築いた柵(馬防柵)を1981年に復元した物。全長120m